

CP-6-Ⅲ-26	実践実務の薬物治療	第6学年	前期 選択	1単位
担当者	浅井 和範			
一般目標 (GIO)	薬剤師に求められる薬物治療 及び 関連情報の知識を統合し適切な薬物治療の担い手となるために、実践実務の薬物治療における基本的知識を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<p>【実践実務における重要な治療薬】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬効別に重要な治療薬の基本的知識のうち、重点ポイントを説明できる。 2. 重要な治療薬に関する服薬指導の重点ポイントを説明できる。 <p>【実践実務における肝疾患時の薬物治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肝疾患時における重要な治療薬の用量設定の重点ポイントを説明できる。 <p>【実践実務における腎疾患時の薬物治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎疾患時における重要な治療薬の用量設定の重点ポイントを説明できる。 			
受講心得・準備学習等	実践実務の薬物治療を学ぶことにより、臨床で重要な治療薬を理解し、これらの適正使用のための基本的知識を把握するよう心がける。			
事後学習・復習等	配付のプリントあるいは参考書を基に、予習 及び 復習を行い、知識を確固たるものにするように努める。さらに、不明な点に関しては、オフィスアワーを利用して問題の解決をはかる。			
オフィスアワー	原則、講義のある日の16時から18時までとする。			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式で行う。
回	項目	内容
1	重要な治療薬(1)	急性前骨髄急性白血病
2	重要な治療薬(2)	DIC
3	重要な治療薬(3)	心不全
4	重要な治療薬(4)	気管支ぜん息
5	重要な治療薬(5)	膠原病
6	重要な治療薬(6)	COPD
7	重要な治療薬(7)	腎臓疾患
8	重要な治療薬(8)	腎臓疾患
9	重要な治療薬(9)	膠原病
10	重要な治療薬(10)	膠原病
11	重要な治療薬(11)	肺がん
12	重要な治療薬(12)	乳がん
13	補講	

成績評価の方法	各講義で実施する小テストの点数により評価する。
成績評価の基準	教務規程に準拠し、試験の点数が60%以上を合格とする。
教科書	プリントを配付する。
参考書など	日本薬学会編「実務実習事前学習」(東京化学同人) 浦部 晶夫他「今日の治療薬」(南江堂) 高久 史磨「治療薬マニュアル 2016」(医学書院)